

教材 No.	4	食と人類
関連教科	家庭、公共、地理、情報、農業	
関連SDGs	目標12（つくる責任 つかう責任）、等	

■教材の概要

- ①SDGsウォッシュへの理解を通じて、副次的な影響を認知する力を育みます。
- ②関係者を整理して全体像の把握（課題の構造化）を行い、課題探索・仮説構築の力を育みます。



■学びの流れ（赤：起承転結の発話、緑：生徒ワーク）

段階	活動内容
導入 5分弱	<ol style="list-style-type: none"> 1（アイスブレイク） 2「前回、仮想水という概念を私たちは知りました。 『海外の資源を間接的に利用しており、日本人は世界と繋がっている』ことが分かりました。」 3（ウォーターフットプリントについて簡易説明） 4（国際標準について簡易説明）
展開1 20分弱	<ol style="list-style-type: none"> 5「仮想水や、水の足跡ことウォーターフットプリントなど間接的に物資を利用しているということを、私たちは認知できるようになりました。 そうなる、私たちはこのように気づくことが増えると思いませんか？『それって本当にSDGs？』と。」 6（SDGsウォッシュについて簡易説明） 7（ワーク1：食品のサプライチェーンから考えられる、SDGs上の懸念点を検討。）【個人 or グループ】 8（食品ロスの定義を簡易説明） 9（食品ロス対策の一例を簡易説明）
展開2 20分強	<ol style="list-style-type: none"> 10「サプライチェーンを基に、日本人の食は本当にSDGs？と問うた時、多くの食品が廃棄されていることを知りました。 前回の水に続き『持続可能性のある食を実現するにはどうしたらよいか？』、ワーク1で整理した内容を活かす形で検討を行い、提案をしてください。」 11（ワーク2：持続可能な「人類の食」を実現するために、様々な関係者は何ができるか検討。）【個人 or グループ】 12（新品種開発と、データ活用に関して簡易説明）
まとめ 5分弱	<ol style="list-style-type: none"> 13「（健康・水・）食というテーマで、データの裏側や、副次的な影響（隠れた負の影響）に対する感度を高めることで、SDGsに関して何が起きているのか、知ることができました。 探究をする上で、そして人生を歩む上で、『真実を見る目』を養うことを意識し続けていただければと思います。」 14（まとめ：SDGs・探究・価値づくりの観点で、ポイントを振り返る。） 15（各人での振り返り、中間課題の予告・説明、等）

■指導上の留意点（赤：起承転結の発話、緑：生徒ワーク）

段階	指導上の留意点、教材作成の狙い
事前活動	0 （授業予告と簡易思考問題の提示：）
導入 5分弱	1 （アイスブレイク：事前活動の内容を、席の近い人と共有、又は、全体で共有。） 2 「海外の資源を間接的に利用しており、日本人は世界と繋がっている」と、学びの導入を行う。 3 （ウォーターフットプリント：仮想水よりやや広い概念であると伝達。フットプリントは、脱炭素の文脈でも登場するSDGsの重要概念。） 4 （国際標準：社会をよくするルールを、自ら働きかけて作りだせることに言及。）
展開1 20分弱	5 「本当にSDGs（持続可能性）に沿ったモノ・サービスなのか、自分で真相を考えられるようになりつつある」と、学びを深める発話を行う。 6 （SDGsウォッシュに触れる） 7 （ワーク1：環境負荷だけでなく、社会・経済（劣悪な労働環境、低賃金・搾取、等）の論点もあると示唆する。） 8 （食品ロス の定義 ：food loss と food waste に、それぞれSDGsのターゲットが割り当てられていることに言及。） 9 （食品ロス対策 の一例 ：ワーク2で様々な関係者を幅広く列挙することに導くため、敢えて流通・消費段階の各種対策は先行して提示。）
展開2 20分強	10 「持続可能性のある食を実現するにはどうしたらよいか？」と、さらに学びを深める発話を行う。 11 （ワーク2：生産・加工・流通の当事者を支える関係者や、食品廃棄後の段階に関わる事業者（処理・リサイクル等）について、産官学 の関係者を列挙 できるよう示唆する。） 12 （新品種開発、データ活用 に触れる ）
まとめ 5分弱	13 「副次的な影響（隠れた負の影響）に対する感度を高め、『真実を見る目』を養うことが重要」と本日や前回までのワークの意義 に言及 。 14 （まとめ：SDGs・探究・価値づくりの3観点で、今後の教訓を確認する。） 15 （振り返りの一例：今後の探究や人生に生きそうな「気づきや印象に残ったこと」を各人でメモ。）
事後活動	16 中間ワーク1：探究における初期段階（知見や情報の収集、課題の探索、等）の活動をトレーニングする内容。

■学習の目標

成長軸	指導の目的	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力、人間性等
SDGs	環境・社会・経済と多面的に隠れた負の影響に配慮すべきことを理解する。	グリーンウォッシュ・SDGsウォッシュの概念を理解している。	持続可能性を判断する際に、ステークホルダーやサプライチェーンを俯瞰して、課題を見出そうとしている。	持続可能な社会の創り手として、自身や他者の行為が真に持続可能な行為か、主体的に追究しようとしている。
探究	関係者を整理して状況を俯瞰し、問題を構造化できるようになる。	ステークホルダーやサプライチェーンの概念を理解している。	目に見えている関係者を起点に、前後工程の活動や連携する活動を想起・推論・情報収集し、全体構造を表現できる。	他者と協力して着眼点やアイデアを意見交換し、効率的かつ網羅的に、問題の全体像を把握しようとしている。
価値づくり	社会をよくするルールを、自ら働きかけて作りだせることを理解する。	どのような種類のルールが存在するか理解している。	「社会が陥っている望ましくない現状や慣行」を見出し、ルールをどう活用できるか仮説を立てつつ、解決策を検討している。	関係者の利害や意見を尊重しながら、ルールを考案しようとしている。

■教科との関連（評価規準は学習指導要領に記載の、当該科目・単元の目標に準拠）

教科	関連する科目・単元 (学習指導要領との対応)	アレンジ例、利用例
家庭		

■活動の狙い（SDGsの目標、探究の武器、知財創造教育の要素との関係）

段階	SDGs ゴール	探究の 武器	知的財産・ 価値づくりの 武器	尊重			創造			社会		
				人間の 心を尊重 する	既存の アイデアを尊重 する	他者の 強みを尊重 する	課題を 見つける	解決 策・ア イデア を考える	アイデ アを表 現する・伝 える	自他の 暮らし や人生 を豊か にする	持続可 能な 「社 会・文 化」に 貢献す る	「未 来」に する 貢献
事前 活動					●							
導入	12	副次的影響 論理的思考 広い視野			◎		◎		●			
展開 1	1, 8, 12	論理的思考 広い視野	ルール	●	◎		◎		●	●	◎	
展開 2	8, 9, 12 ~15, 17	ステークホル ダーマップ 広い視野	種苗	●	◎		◎	●	●	●	◎	●
まとめ												●